



先を考えた行動



辛い時こそそばにいる



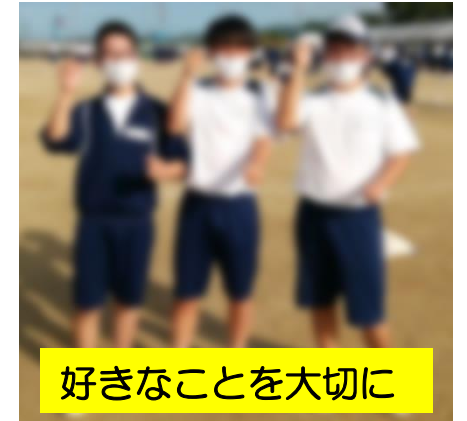
強くかっこよく生きる



素直な心



クラス関係なく



好きなことを大切に

研究主題

『子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり』
～言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう～

本校の概要

校訓
誠実・努力・敬愛

学校教育目標

「心豊かでたくましく、生きる力をもった生徒の育成を図る」

生徒数

1年生	136名
2年生	136名
3年生	150名
合計	422名

(特別支援学級人数を含む)

生徒の様子

- 素直な生徒が多い。
- 自分に与えられたことに責任をもって取り組むことができる。
- 困っている友達を手助けする生徒が多い。

本校の課題

課題①

学校やクラスが心地よい居場所になっていない。

課題②

自己肯定感や自己有用感の低い。

課題③

コミュニケーション力に課題があり、自分の考えや思いを人に伝える活動が苦手。

研究主題設定の理由

「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための鍵として、「学級づくりが土台になる」と考えている。教室は、“みんながあたたかく迎えてくれる居場所”であるという前提のもと、浅口市教育委員会による2018年度から心の教育推進事業を活用し、教育実践家の菊池省三氏を講師として招聘し、学級づくりと授業改善の両方を同時に着手した。

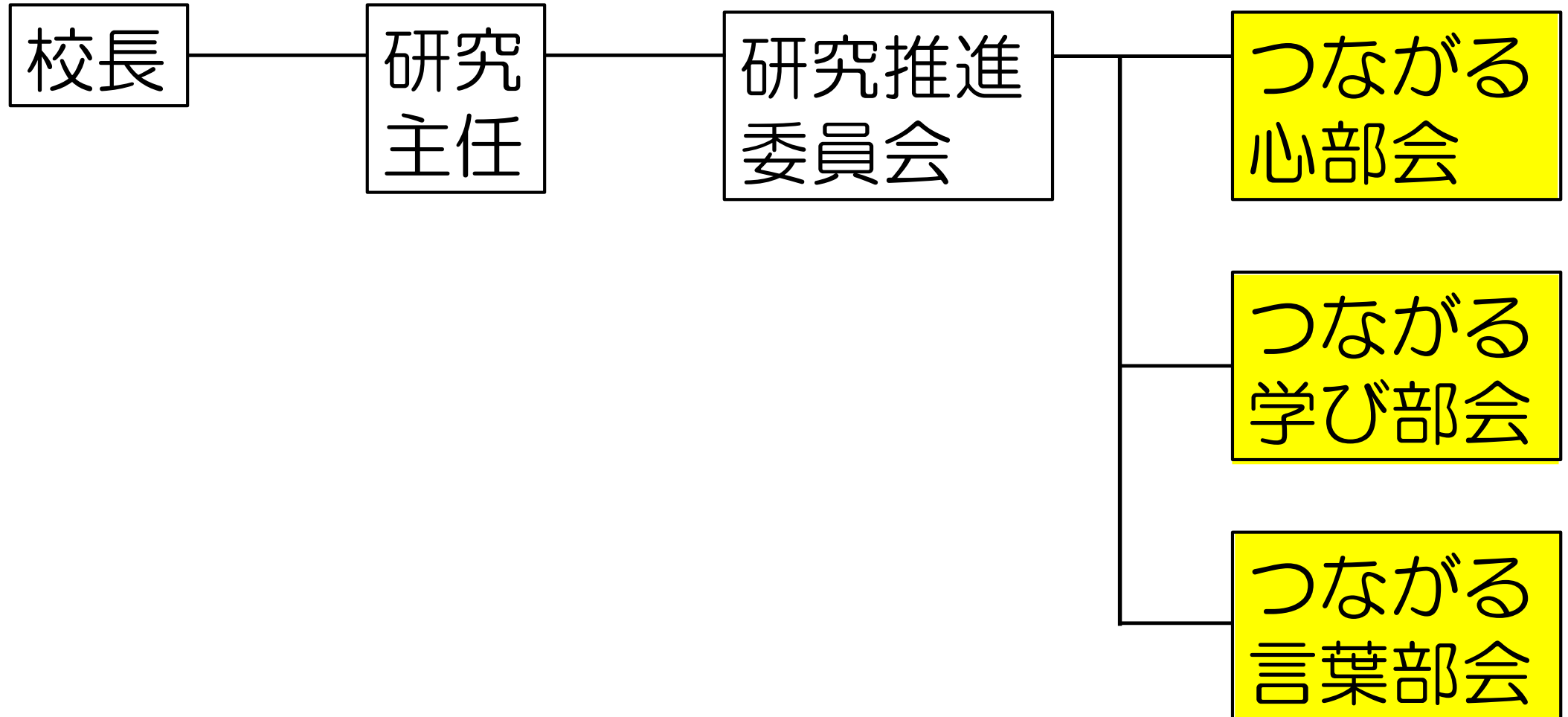
菊池氏と初めて出会う生徒の表情は1時間の授業の中で大きく変化した。この授業をヒントに、本校では“生徒が主語”をキーワードに『子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり』～言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう～を研究主題と設定した。

研究仮説

- ① 子どもたちが輝くクラスづくりに迫るために、全ての学級で互いに認め合い高め合える環境を整備して、ほめて、認めて、励まししながら、教師と生徒が共に伸びる学級づくりが有効ではないか。
- ② 子どもたちが輝く授業づくりに迫るために、全ての授業で生徒一人ひとりのコミュニケーション能力を高め、人とつながる・人とつなげる力を育む授業展開・声かけ・しかけなどが有効ではないか。

研究組織

3つの部会に分け、ねらいを設定し、研究を進める。



特徴的な取組

学級経営の5本柱

学級づくり

1

ほめ言葉のシャワー

2

価値語

3

コミュニケーション
トレーニング

授業づくり

4

挙手指名のみからの脱却

5

対話・話し合いのある授業

鴨方中学校の学びの5か条

～鴨方中学校が目指す主体的・対話的で深い学び～

- ① 良質な課題設定～生徒がコミュニケーションしたくなる状況設定・課題設定～
- ② 新たな気づき・発見がある対話
- ③ 自己表現をうながす「なぜ思考」
- ④ 双方向のあたたかい関係性をうながす声かけ
・ しかけ
- ⑤ ほめて、認めて、励ます声かけ・しかけ

① 良質な課題設定～生徒がコミュニケーションしたくなる状況設定・課題設定～

コミュニケーションしたくなる状況設定、課題設定をすることで、主体的な学び・対話的な学び・深い学びに導くようにする。

⇒ 本校では、良質な課題設定による「問い、発問」によって、対話・話し合いの質の向上を重視するポイントの1つとした。

例) ①最初から対立させる。②答えが分裂する発問をする。③教師が介入して分裂させる。

② 新たな気づき・発見がある対話

話し手は根拠を明確にして発表し、聞き手は疑問点を明確にして聞いたりする中で、自分の考えを深め、表現を豊かにするための課題や発問によって、生徒の発表の力や傾聴の力を育成する。

- ① 根拠を明確にした発表・発言
- ② 疑問を明確化するための質問
- ③ 自分の考えを深めるための反論

③ 自己表現をうながす「なぜ思考」

個人で思考したり、他者とコミュニケーションしたりしていく過程で、「おや？なぜ？」などの、疑問が生まれる声かけ・しかけをとり入れることで、「なぜ？」と考える習慣、（なぜ思考）が身につく取組となる。

健全なものの見方・考え方で、肯定的または批判的立場に立つことができる生徒の育成となる。

④ 双方向のあたたかい関係性をうながす声かけ ・しかけ

誰とでもコミュニケーションでき、思いや考えを伝え合える関係性をつくる教師の声かけ・しかけ（ファシリテーター的な立ち振る舞いで「学びあい、つながりあい」を生みだすこと）が大事である。

交流の場面では、教師は何を観察して、どう価値づけて、全体へ広げていくか、ファシリテーション力を磨き、協働探求者として生徒とともに授業を創るという視点が大切である。

⑤ ほめて、認めて、励ます声かけ・しかけ

生徒の気持ちに火をつけるため、意図的にほめて、認めて、励ます、声かけ・しかけを取り入れることを大切にしている。

一人一人の生徒たちを、見捨てずに、磨き、輝かせ、豊かな心を育みます。また、プラスの雰囲気、学級、学校に浸透し、次々に競い合い・高め合うサイクルにつながると考えている。

総合質問紙調査i-checkの活用

【第1】 category	【第2】 category	【第3】 category	
		名称	内容
I 自己認識	1 愛されていますか	① 家族のささえ	家族との関係。家族から愛され、認められているかという意識
		② 友だちのささえ	友だちとの関係。学校・学級に限定されない個人的な友人との絆、信頼関係
		③ 先生のささえ	先生との関係。先生との信頼関係や、認められているかという意識
	2 自己肯定感	④ 成功体験と自信	これまでの自分に対する評価とそれに基づく自信
		⑤ 充実感と向上心	今現在の充実感と、未来の自分を信じて頑張る力
		⑥ 感動体験	自分の変化の転機となるような出会いの有無と、それに気づける心
		⑦ 他者からの評価	承認欲求の充足感
	3 キャリアデザイン	⑧ キャリアデザイン	進路希望や将来への意識、準備状況
II 社会性	1 ソーシャルスキル	⑨ 規範意識	社会の決まりやマナーを重んじ、守る意識
		⑩ 思いやり	他者への思いやりの心と、より良い関係を築く力
		⑪ 発信力	自分の気持ちや考えを、言葉や態度で伝える力
		⑫ 対話・話し合い	話し合い活動の有無と、それを楽しんでいるか
2 社会参画	⑬ 社会参画	社会に関心を持ち、関わり、役立とうとする意志の実行力	
III 学級環境	1 学級風土	⑭ 学級の規範意識	学級としての責任感や学習に向かう姿勢などの評価
		⑮ 学級の絆	学級に対する帰属意識や愛情とその表現
	2 リスク管理	⑯ いじめのサイン	肉体的、精神的いじめの有無とその兆候
		⑰ 対人ストレス	表面上見えづらい人間関係のストレス
IV 生活・学習習慣	1 生活習慣	⑱ 生活習慣	基本的な生活習慣
	2 学習習慣・意欲	⑲ 学習習慣	基本的な学習習慣
		⑳ 学習意欲	積極的に学ぼうとする姿勢

※キャリアデザインは高校のみ

i-checkとは、「自己肯定感」や「ソーシャルスキル」などの様々な視点で、生徒の個性や背景、今の心のありようを、立体的に描き出す調査である。全校で実施し、学級経営や、総合的な生徒理解についての客観的指標としている。

つながる心部会

つながる心部会としての課題

課題①

自己有用感の低い生徒が一定数存在し、前向きに活動するエネルギーを失い、人間的な成長を妨げている。

ほめて、認めて、励ます活動を取り入れる！

課題②

コミュニケーション力が低く、考えや思いを人に伝えたり、聞いたりする活動が苦手。

つながる心部会の活動方針

「子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり」

→生徒が「活動の中心＝主体」となって課題や問題に取り組み、それらを達成・克服していける交流活動等の場面を設ける。

「言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう」

→ほめ言葉のシャワーやコミュニケーショントレーニングの活動を取り入れ、継続して行うことで自己有用感を感じる学級づくりと、生徒たちが輝く自治的集団の育成を図る。

具体的な取組

ほめ言葉のシャワー



初めてのほめ言葉のシャワーをしたときの様子

コミュニケーショントレーニング



ディベート的要素のある話し合いの様子

ほめ言葉のシャワーの進め方

- 1 「今日の主人公」を決める
- 2 みんなで1日、その人を観察
- 3 教師がプロデュース・演出
(付箋／観察／もう見つけた？etc)
- 4 帰りの会で、全員で発表
- 5 主人公によるお礼のスピーチ

ほめ言葉のシャワーの学期別の目標

- 1 学期・・・つながりをつくる。
(＝相手のことを知ろうとする、自己開示ができる。)
- 2 学期・・・具体的な内容が1 学期より言える。聴く、話すについてのハードルが低くなる。
- 3 学期・・・友達の成長を素直に喜べる。価値ある言葉や、2 学期よりまとまりのある話ができるようになる。

ほめ言葉のシャワーを成功させる年間指導計画

1 学期前半

- 教師がほめて、認めることで生徒のモデルとなるとともに多様な見方や視点が広がるように価値つけていく。
- 書く指導…箇条書きでよいので、友達のをさを表現する。
質よりも量をめざす。
- ほめ言葉の導入ステップで言葉を大事にする授業を展開する。

1 学期後半

- 主役に心を向ける。
- 話す・聞く指導…姿勢、目線、出す声、聴き方、などの指導・称賛する。

ほめ言葉のシャワーを成功させる年間指導計画

2学期

- 具体的な描写の指導…数字、会話文、固有名詞などを取り入れつつ、語彙を育成する。
- 整った文の指導…「事実＋感情＋ α （お礼、励まし、ねぎらい）」の組み立てを指導する。
- 身振り手振り、表情を指導する。
- 定期的にお互いの学級の活動を見せ合う。

3学期

- 書く指導…個性的な表現ができるようになる指導を行う。
- 語彙指導…価値語の提示による積極的な利用を促進する。
- 成長した姿をお互いでたたえ合う。（伝承する。）

ほめ言葉のシャワーを導入する意味

- i 友達のよさを見つける観察力や、それをあたたかい言葉で伝えることのできる表現力を身につけることができる。
- ii お互いにほめ合うことで、友達同士の関係が強くなり、教室が自信と安心の場になる。
- iii お互いに小さな丸をつけ合うことを続けていくことによって、自分たちの「望ましい在り方」をクラス全体につくっていくことになり、絶えず「成長」を意識した、豊かな学級文化を育てることができる。

コミュニケーショントレーニングを導入する意味

対話活動・コミュニケーションゲームなどを通して人間関係を築き、

「他者と関わる力」

「対話力」

「身体表現力」

「言語表現力」

「観察力」

「発想力」

「想像力」

「質問力」

「スピーチ力」

「共感力」

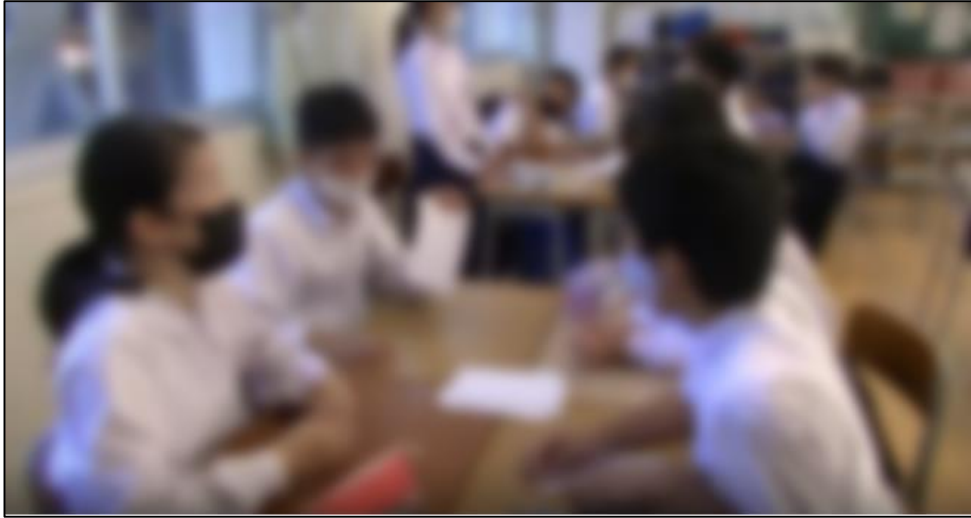
「聞く力」

「論理的推理力」

「プレゼンテーション力」

などの力を身につけることを目的とした活動

チャップrintトーク



ディベート的要素のある話し合い



対立の構図を生み出す

コミュニケーショントレーニングの5段階レベル

レベル1

全員が喋れる題材の設定

例) リンゴが好きか、みかんが好きか？

レベル2

全員とつながれる題材の設定

例) リズムしりとり

レベル3

お悩み相談

例) ・国語の勉強が苦手。どうしたらいい？

※学級で自分とみんなが一緒に考えていこう
というスタンスづくり。

コミュニケーショントレーニングの5段階レベル

レベル4

想像型

例) 教室に有名人を呼ぶなら?

レベル5

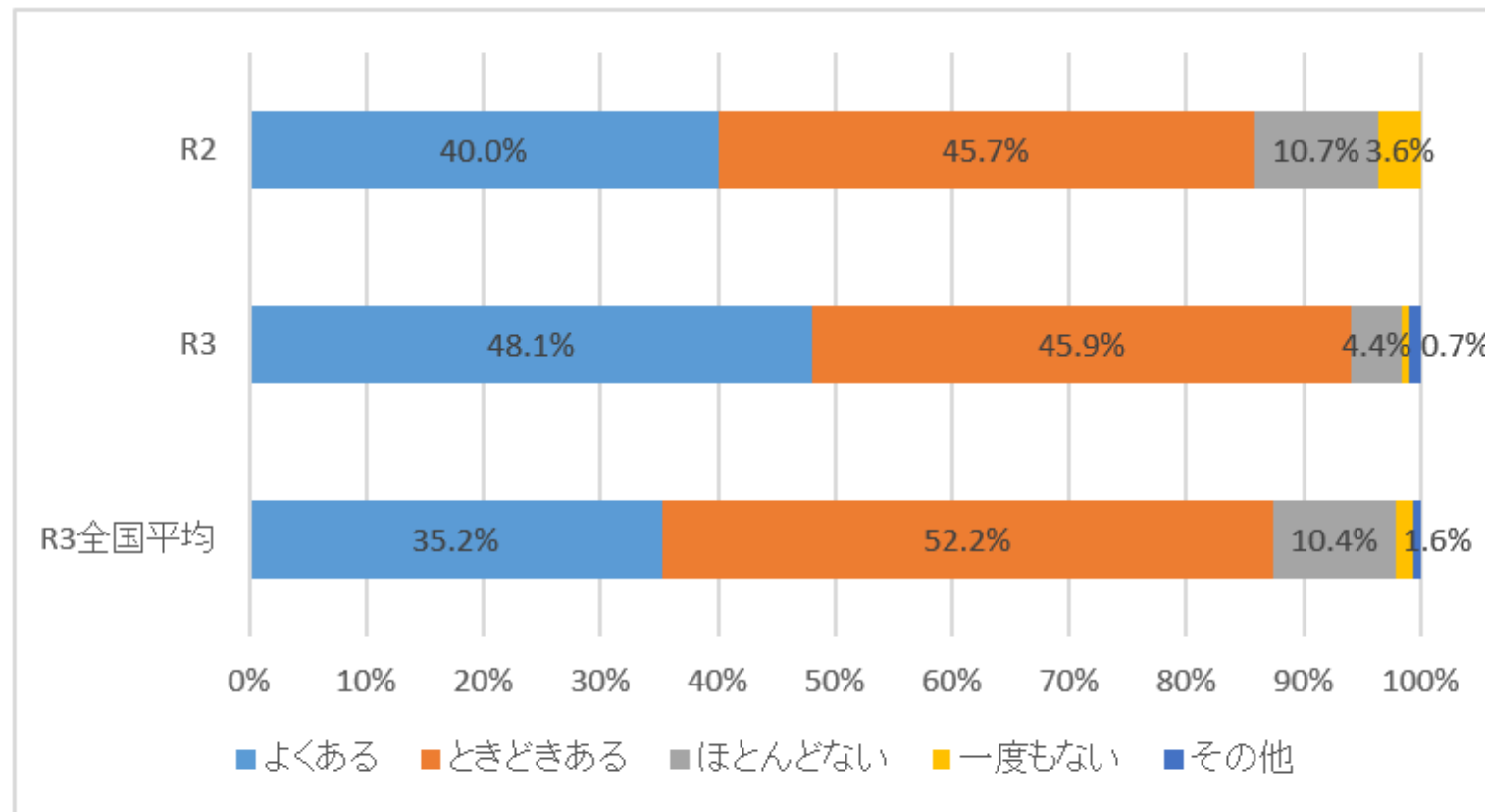
ディベート型

例) 授業中にうるさい友達がいたら、自分たちで注意するべきである。○か×か?

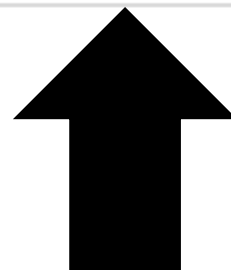
※生徒たち同士で解決できる学級風土をつくる
＝問題解決力

質問24)

あなたががんばったとき、友だちから、がんばったね、すごいねと、ほめてもらったことがありますか。

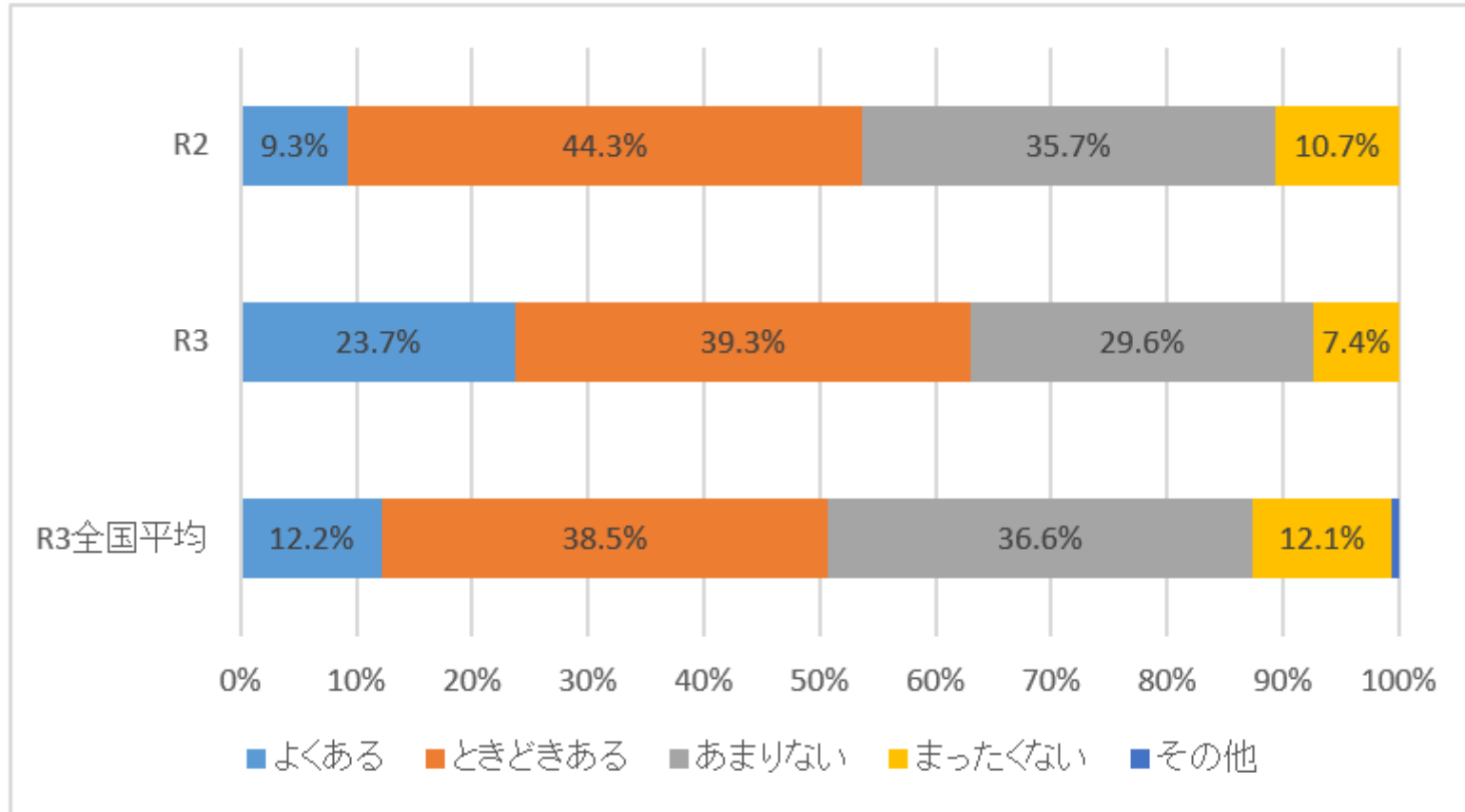


8.3%上昇

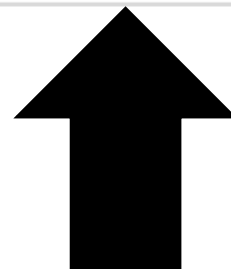


質問30)

学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、
友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。

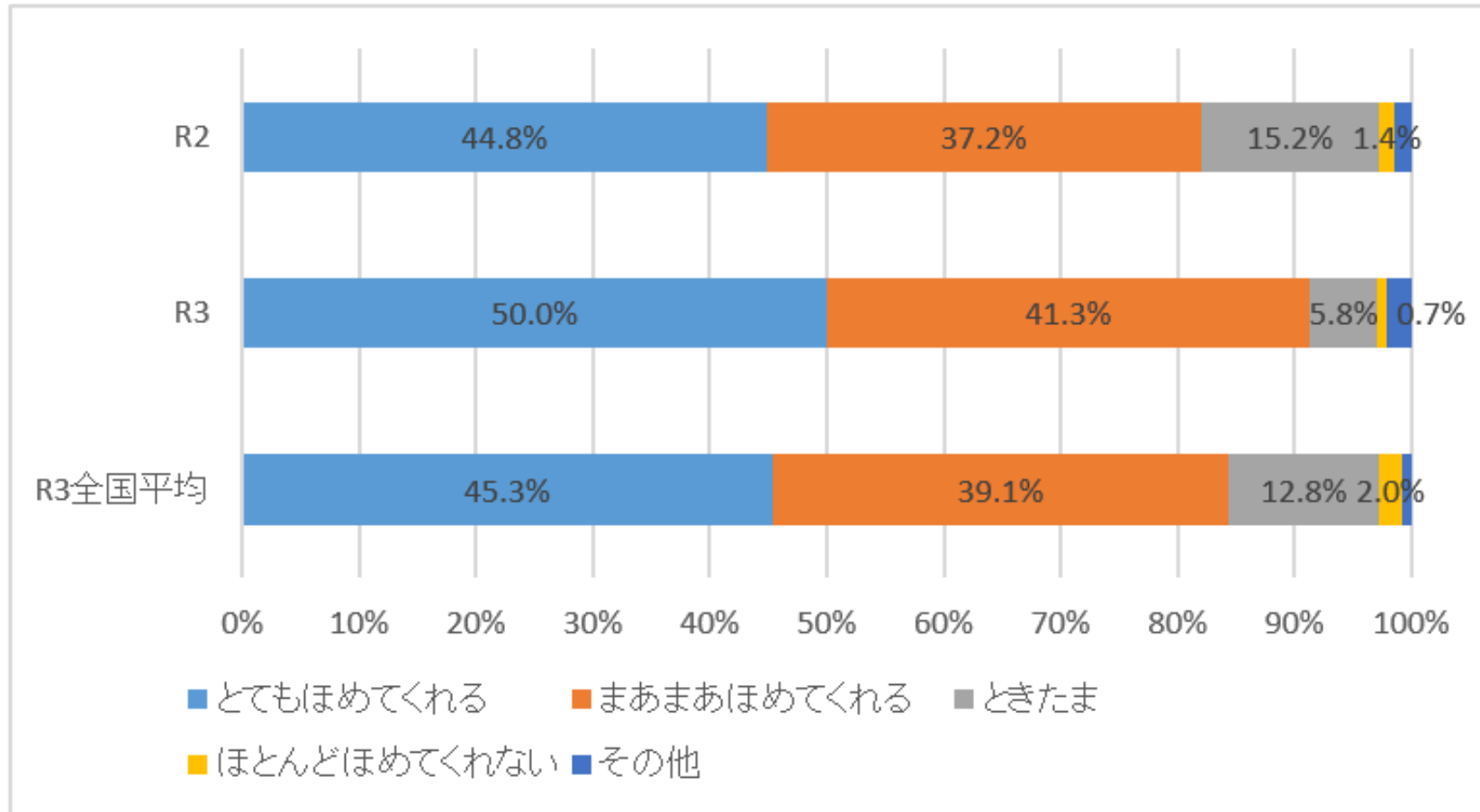


9.4%上昇

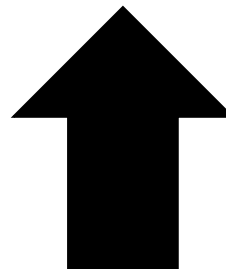


質問39)

先生はクラスみんなのことを、ほめたりはげましたりしてくれますか。

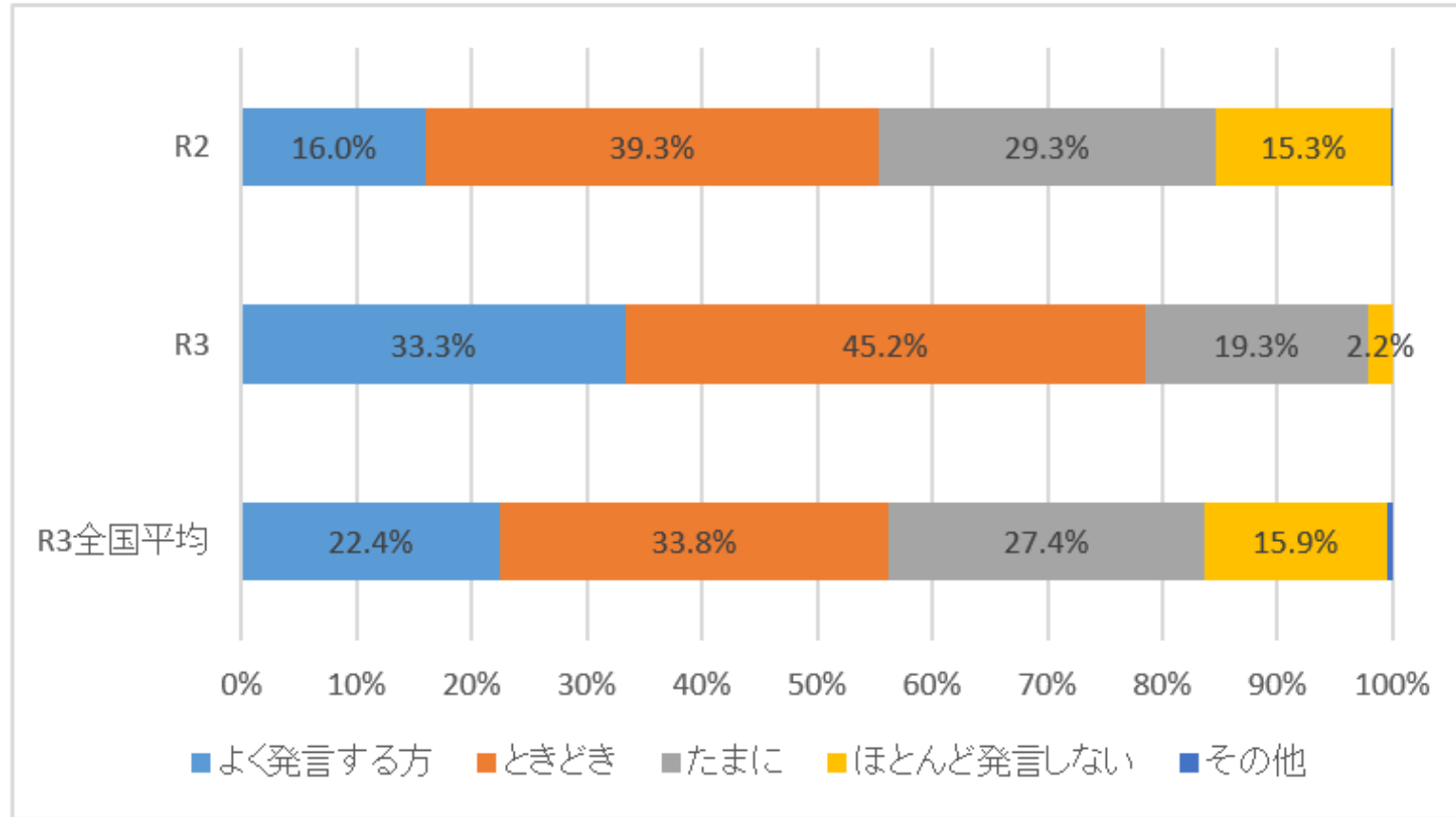


9.3%上昇

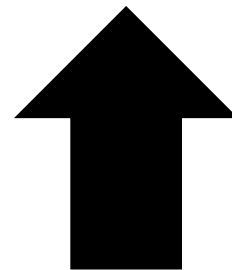


質問45)

クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。



23.2%上昇



つながる学び部会

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】手段

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成

バランス
よく育む

実現



【対話的な学び】手段

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

つながる学び部会としての課題

課題①

話し合ったり、議論したりする経験が不足していることで、コミュニケーション力を伸ばし切れていない。

課題②

生徒は自分の思いや考えを発信するのが苦手で、なおかつ他者の意見を聞いてさらに考えを深めることができていない。

つながる学び部会としての課題

課題①

話し合ったり、議論したりする経験が不足していることで、コミュニケーション力を伸ばし切れていない。



○コミュニケーションの量と質を高める



○知識と知識がつながり、知識の転用が起こる

つながる学び部会としての課題

課題②

生徒は自分の思いや考えを発信するのが苦手で、なおかつ他者の意見を聞いてさらに考えを深めることができていない。



根拠を明確にして自分の考えを説明する課題」を効果的に取り入れる

つながる学び部会の活動方針

「子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり」

→知識や経験を身につける行動を『学び』として、教授型では生徒が受動的になるため、能動的な学習者を育てる授業展開や声かけをする。

「言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう」

→主体的、対話的で深い学びを生み出すため、すべての教科で確かな言葉の獲得と活用場面を設定する。社会の中で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間力等」である三つの資質・能力を育成するために「教える」という視点から「子どもたちが自ら学ぶ」という視点へ転換し、ほめて、認めて、励ましながら授業をファシリテートする。

本校が考える「主体的な学び」のイメージ

学習者としての生徒自身が自らの学びをコントロールできることと考える。自分ごとの課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚する。これを繰り返すことで自分自身の力で学びをコントロールすることができる。したがって授業の導入における「課題設定」と「見通し」、展開における「問い」や「発問」、終末における「振り返り」に力を入れる。生徒は実生活や実社会とのつながりのある具体的な活動や体験を行うことによって意欲的で前向きな姿勢となる。

本校が考える「対話的な学び」のイメージ

異なる多様な他者との学び合いを重視することが大切になる。学習のプロセスを質的に高めていくとともに、他者と力を合わせた問題の解決や協働による新たなアイディアの創造が求められているからである。

問題の解決場面においては、自分一人で行うのではなく、多くの人々の参加による協働で解決に向かって取り組んでいくことが大切になる。したがって授業では、自分と他者の知識や情報を比べたり、関連付けたりして処理し再構築していく。その結果として、新しい思考が醸成される。

本校が考える「深い学び」のイメージ

身につけた知識や技能を活用したり、発揮したりして関連付けることが大切になる。だからこそ、明確な課題意識をもった主体的で文脈的な学びで知識や技能のつながりを生むことが必要であり、情報としての知識や技能を対話によってつないで再構成する処理場面の活用化も重要となる。

授業では、問題を解決するプロセス、解釈し考えを形成するプロセス、構想し創造するプロセスなどを一層充実させる必要がある。

具体的な取組

○挙手指名のみからの脱却

挙手→指名による発表

意図的な指名による発表

席の順番や列指名

ペアの相手の話の内容を発表

グループ協議後発表

予告・予約して指名発表

「せーの」で全員発言

気が付いたことを自由起立発表

黒板に意思表示をする全員発表

リレー発表

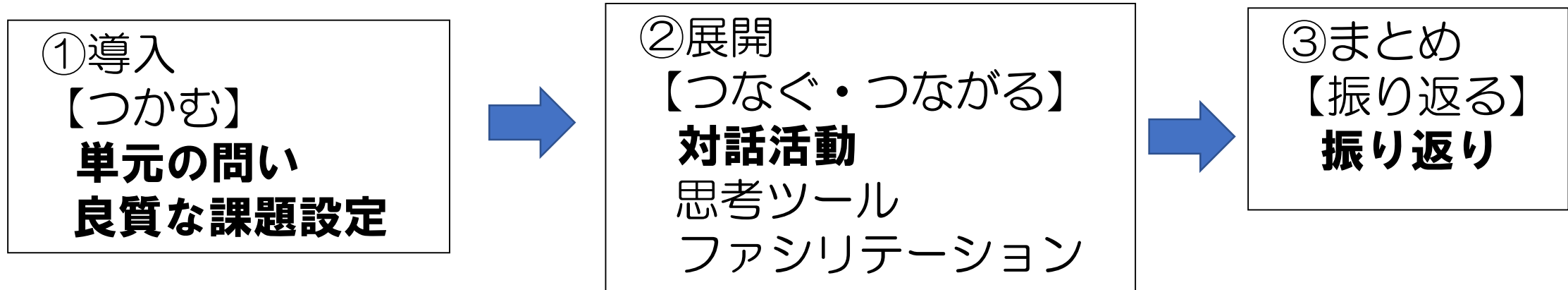
クロームブックによる言語化発表

○対話・話し合いのある授業展開



- 既習の知識、技能
- 異なる多様な他者との関わり

1時間の授業デザインについて

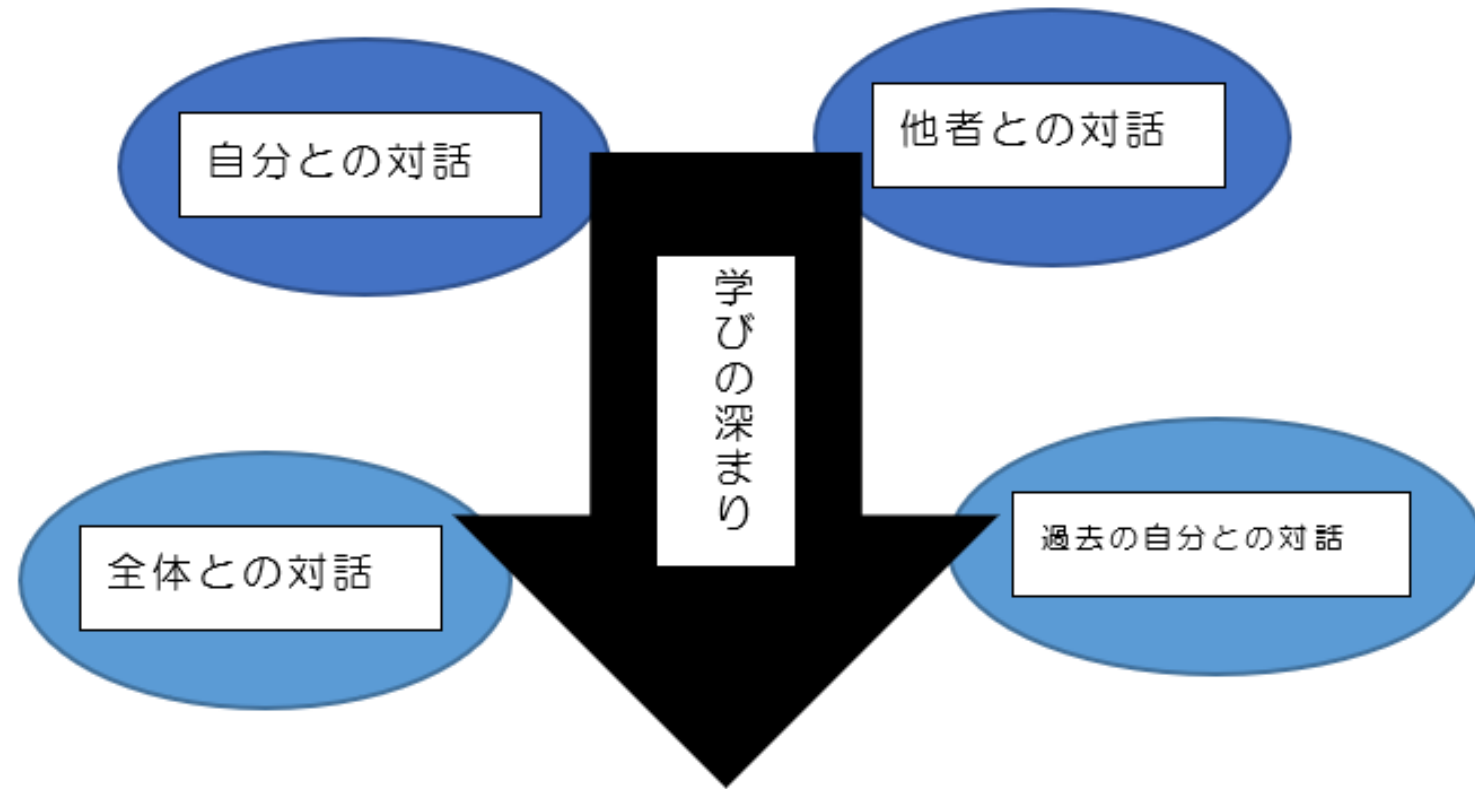


- ① 導入では、「単元の問い」「良質な課題設定」をもとに動機付けや課題設定を行い、生徒を引きつける。

【つかむ】

- ② 展開では、「思考ツール」や「ファシリテーション」などを活用し、習得した知識・技能を用いて、対話活動を中心に生徒の考えを交わらせる。【つなぐ・つながる】

《対話活動のイメージ図》



- ③ まとめでは、何ができるようになったか、日常生活でどのように生かせるか、友達の頑張り、自分の変容などの価値について振り返る。【振り返る】

公開授業の実施について

研究の視点をもって教師同士の授業を見合うため、研究テーマに沿った授業参観シートを準備し、意識しながら相互参観に取り組んでいる。

本校の公開授業における指導の重点ポイント①

(公開授業：社会)

話し合い活動(言語活動)の質を向上させる声かけ・しかけ

1 共有させるための教師の働きかけの例

- ○○さんの説明をもう一度言えますか？ **再生**
- ○○さんの考えの続きが言えますか？ **予想**
- ○○さんの考えを簡単に言えますか？ **要約**
- ○○さんの考えのヒントが言えますか？ **補助**
- ○○さんの考えのよかったところはどこですか？ **発見**
- ○○さんの気持ちがわかりますか？ **共感**

2 考えを深めるための問い返しの例

- どういうことですか？ **事実**
- どのように考えたのですか？ **方法**
- どうしてそうなるのですか？ **理由**

※発言や表情をしっかりと見取り、問い返すことがポイントである。

本校の公開授業における指導の重点ポイント②

（公開授業：英語）

まとめ（Summary）では「本時のゴールとしてOutput活動」が必要である。自分のやりとりの結果を班内で報告したり、仲間の情報を共有したりすることで、自分の活動をメタ認知でき、より本時のターゲット文の理解を深める活動を設定することが大切である。

本校の公開授業における指導の重点ポイント③

（公開授業：音楽）

一人一人が自分の思い、考え、感じたことを自分の言葉で表現する、自分の考えと人の考えを比べて聞き自分の考えを確かなものにする、根拠を明らかにして理解したことを人に伝えられるようにする等、コミュニケーション力を付けることを意識して取り組むことにより、思考力・判断力・表現力等を身に付け、音楽を理解する力を高めている。

本校の公開授業における指導の重点ポイント④

（公開授業：数学）

「主体的・対話的で深い学び」の授業展開を考えるときに、軸となるのは生徒の『なぜ思考』である。生徒自身が疑問をもち、その疑問を学級全体で考えることで、さらに新たな疑問が生まれる。本校は、このような『なぜ思考』の連続が主体的に深く学ぶ生徒の姿と考えている。

教師は「どこに着目したのかという着眼点」や、「どうしてそのように考えたのかという発想の源」を生徒から引き出すことが重要である。着眼点や発想の源については、まず自分なりの表現でもよいので伝えるという態度を大切にしている。

本校の公開授業における指導の重点ポイント⑤

（公開授業：理科）

本校の生徒は、間違いを恐れ自分の考えを述べたり、書いたりすることに消極的なため、主体的に取り組む姿勢に課題が見られた。そこで普段の授業では、協働して何とか解決したい、なぜだろうという疑問が持てる課題設定の工夫を行った。個人の考えを持った後、自由な立ち歩きから自分の思いや考えを伝え、結びつけ、教科の本質を身に付けるため、よりよい表現に変える活動を行った。また日頃から生徒同士のつながりを意識したコミュニケーション活動を行い、ほめて・認めて・価値づけながらコミュニケーションをするのが当たり前の環境づくりを行っていった。

本校の公開授業における指導の重点ポイント⑥

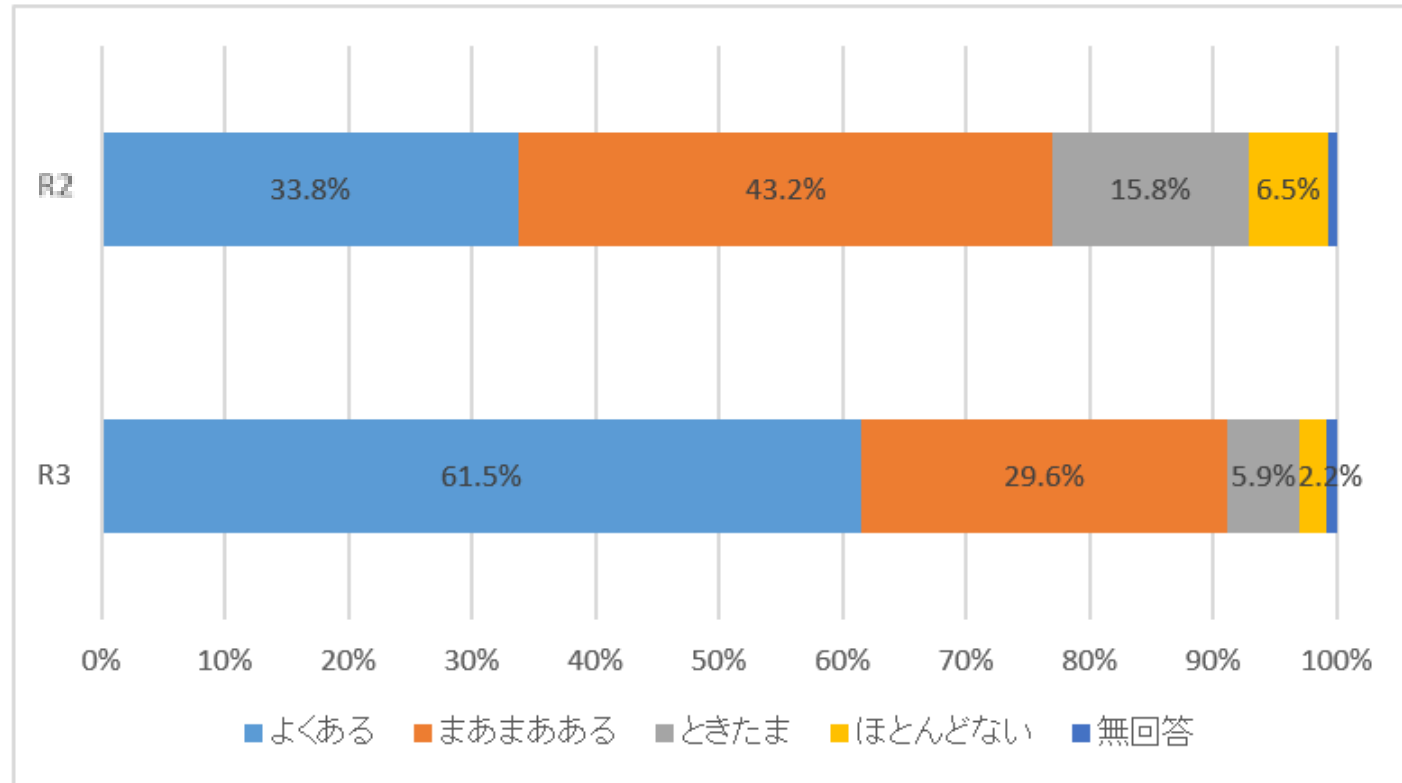
(公開授業：数学)

公開授業から本校が求めている授業には、以下のような生徒の姿が見られるのではないか。

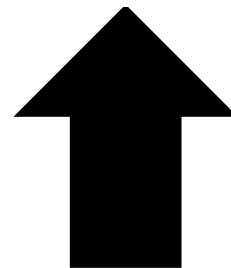
- 1 学びを楽しむ
- 2 積極的に主張する
- 3 互いの意見を傾聴する
- 4 独自性や斬新さを認める
- 5 意見や考えの差違に正対する
- 6 自らの考えを生成する
- 7 仲間の存在を大切にする
- 8 自己変容に気付く

質問77)

学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか。

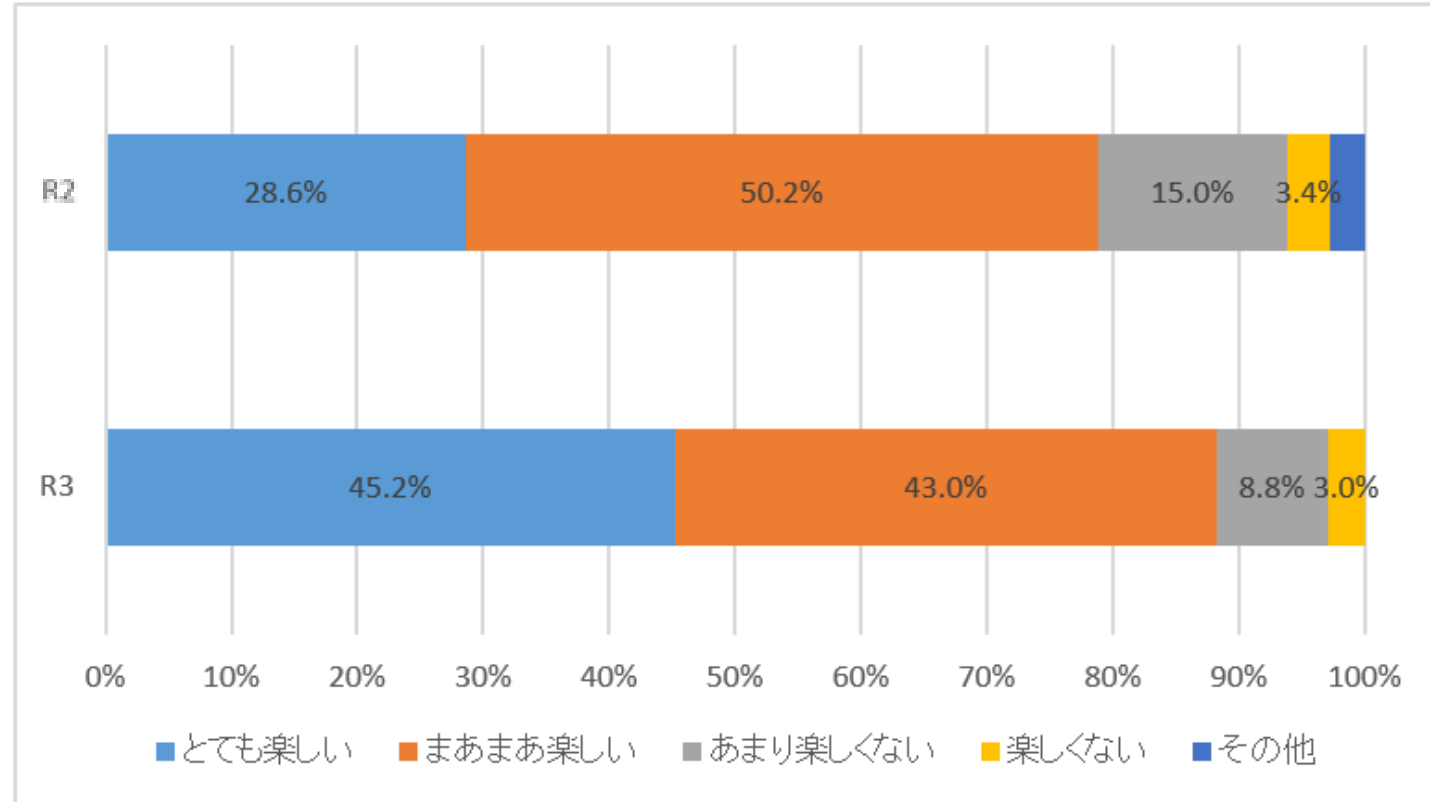


14.1%上昇

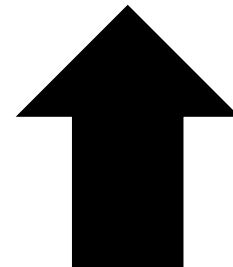


質問78)

グループで話し合う授業は楽しいですか。

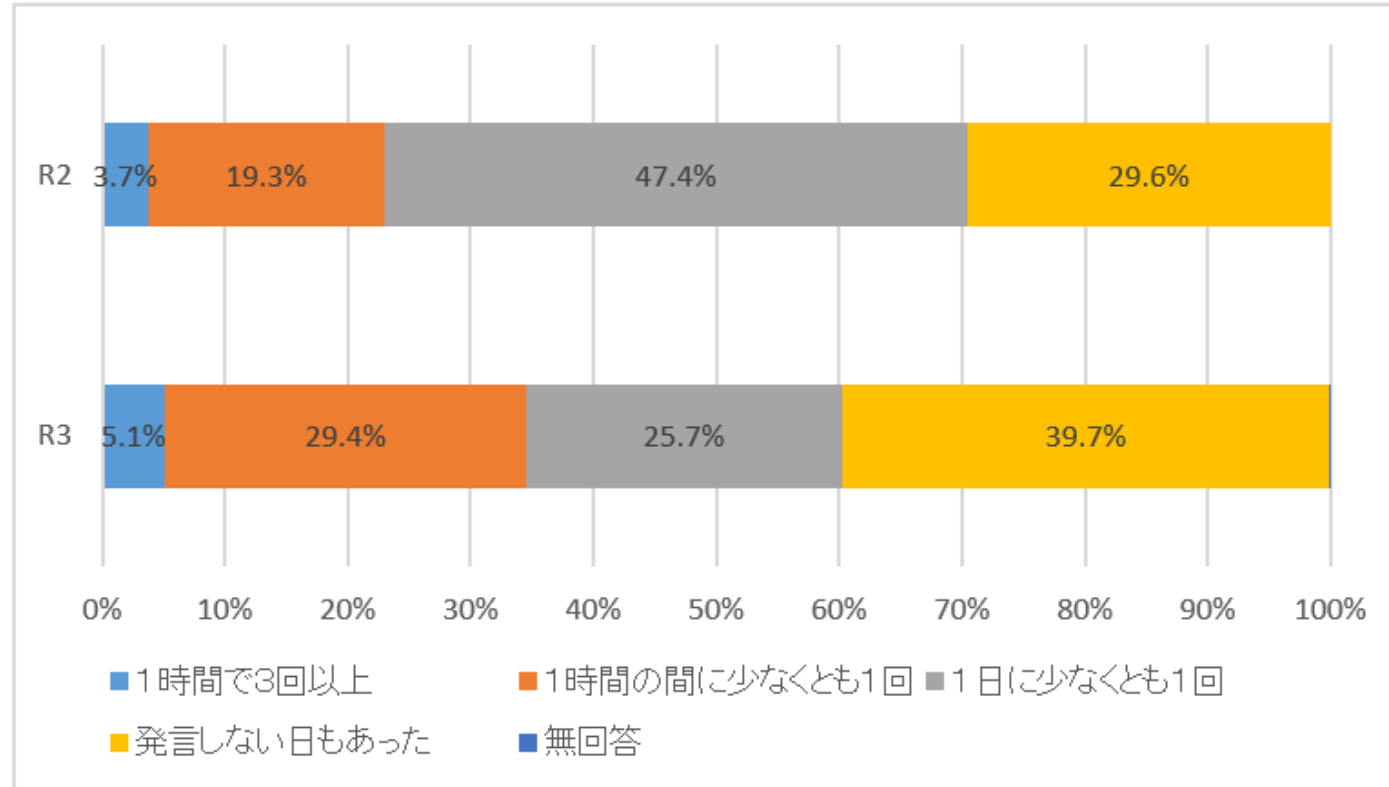


9.6%上昇

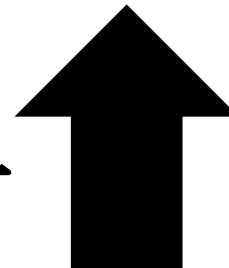


質問46)

あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。



11.5%上昇



つながる言葉部会

つながる言葉部会としての課題

課題

自分の思いや考えのちがいを整理しつつ、相手の話を聞き、受け止めることが苦手で、相手の話に対して、状況に応じて的確に反応できない。

つながる言葉部会の活動方針

「子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり」

→ 価値語や言語活動で相手も自分も好きになり、自分らしさを発揮して今日よりも明日と一歩ずつ成長しようとする手助けとなる環境づくりを目指す。

「言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう」

→ 当たり前前のことを当たり前に行動している生徒の姿を認め、価値づける。そしてプラスの行動、言動が人の心を動かし行動や考え方を換え、みんなが幸せになる自信と安心のある学校へと導く。

具体的な取組

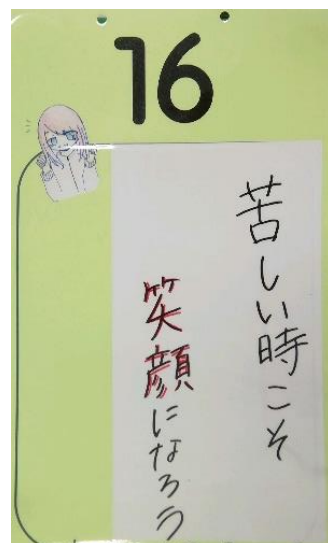
教師の言葉かけ

授業内容伝達言葉 . . . 「指示」「発問」
「説明」

自己表現的言葉 . . . 「ほめる」「認める」
「はげます」「つなげる」

具体的な取組

価値語、環境整備



価値語を導入する意味

- i 「よいものはよい」、「頑張ることや成長することはよいことだ」という学級風土の土台を築く。
- ii 友達のよさに目を向け、理解し、つながりを確かにもてる力を育む。
- iii 「一人ひとりがちがっていい」ことを理解し、自分らしさを発揮できる心を育む。

価値語作成について

「与える価値語」 「切り取る価値語」 「生み出す価値語」
の3つに分類



#ぼくたちのSDGs



**あたたかい
リアクション**

友だちが発言するとき自然と「拍手」が起きたり、「そうだね」とか「わかる」あいづちしたりなどあたたかい関わりができる鴨方中学校の生徒はさすがですね。素敵な力です。



**教室は
2つの空間**

休み時間は友達と仲良く過ごす空間。
授業になると集中して学習し高め合う空間。切り替えをすばやく、2つの空間で成長していこう。



《与える価値語とは・・・》

望ましい生き方や考え方を心に響く言葉で教師から生徒たちに伝えている。イラストや写真を添えて分かりやすく示すことで、理解が深まる。

《切り取る価値語とは・・・》

モデルとなる行動を切り取り、素敵な言葉で価値づけした言葉である。その場면을切り取った写真があればより効果的である。

《生み出す価値語とは・・・》

生徒たち自身が考え、行動を価値づけして生み出す言葉である。

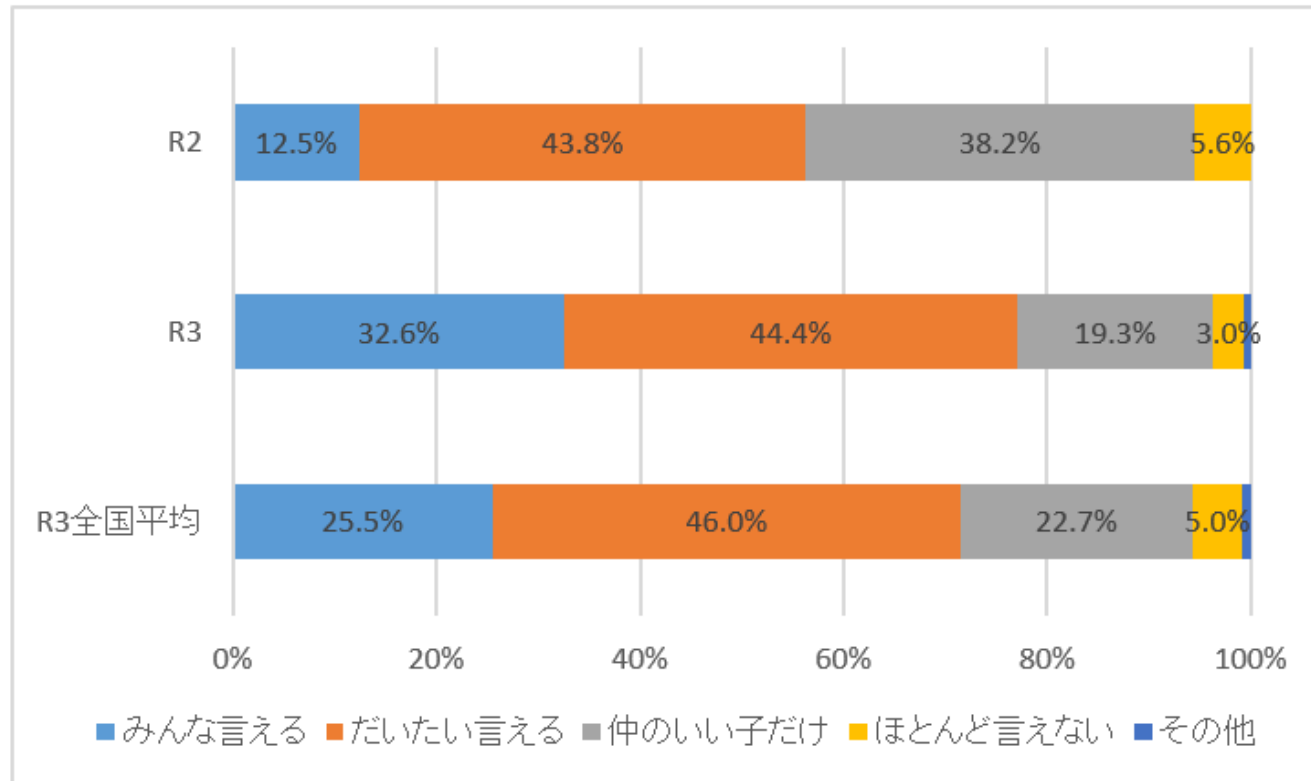


成長年表や価値語作成にあたっての教師の心がまえ4条件

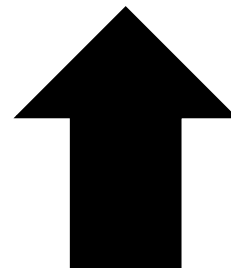
- 条件1・・・価値ある活動、行動、学ぶ姿勢をアウトプットできる。
- 条件2・・・言葉を大事にして言葉で育てるという姿勢を貫く。
- 条件3・・・子どもとして育てるのでなく、1人の人として育てる視点をもつ。
- 条件4・・・どんな生徒でもよりよくなるという想いを大切に必ず変わると信じる。

質問38)

「あなたは、クラス全員の、一人ひとりの
いいところを、言葉にして言うことができますか」



20.7%上昇



まとめ

- 本校の伝統であるほめ言葉のシャワーやコミュニケーショントレーニングは継続して取り組むことであたたかい空気を生み出す学級風土の醸成になる。「心」をベースとした取組で、自己肯定感、自己有用感が高まった。
- 「学級経営」と「授業改善」は同時に取り組むことで生徒の人間的成長を促す。
- 「ほめて、認めて、励ます」声かけ、しかけは、教師と生徒、生徒同士の間人間関係を良好にし、学びを深める。

文責：

浅口市立鴨方中学校

研究主任 久山 耕平